

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	<ul style="list-style-type: none"> ・信越線及び新潟県内の鉄道に関する研究。今年は、勾配線区を走行する動力車に働く力学の考察と信越線の歴代の機関車について考察した。 ・本 NPO の新しい企画である「道と旅と文化交流」に参加。ZOOM による研究会で準備段階の報告をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くびき野カレッジ第 22 期の講義として、2021 年 5 月 8 日に「碓氷峠の信越線」を講演。 ・くびき野カレッジ第 23 期の講義として、2021 年 10 月 9 日に「碓氷峠 人・米・石油はどう運ばれたか」を講演。 ・
【くびき文化に関係しない研究】	<p>(1) 2020-2023 年度の科学研究費・基盤研究 (B) 「ヘーゲル美学講義における絵画論の芸術哲学的な意義とポアスレ・コレクション」(課題番号 20H01204) に採択され、本年度はその 2 年目であった。コロナ禍の影響で、予算の執行自体が困難を極めているが、鋭意酔狂中である。</p> <p>(2) 上記研究の一環として、美術アカデミーを中心にアカデミー全般の歴史の研究をおこなった。その成果として、政府による学術会議介入問題についても考察をおこなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・史資料紹介「「美学」概念はいかにして形成されたか」(『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Vol.6 / No.5 (2021.3.14) P,1-33) ・学問の自由を考える会(新潟)主催のパネルディスカッション「「新人世」における学問の自由(2021年3月27日新潟大学駅南キャンパス ときめいと講義室)」にて、「学問と権力」と題する報告を行う。

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>★バテンレース：頸城野を織りなす、ますや de お話会（11 回）、2021.03.13. ★天の恵みとしてのく風の三郎：東頸城・魚沼・湯沢町、ますや de お話会（12 回）、2021.04.10. ★頸城野の祭り与自然歳時記、ますや de お話し会（13 回）、ますや de お話会（12 回）、2021.05.08. ★儀明川沿い土橋付近の河岸・土手調査—舟運との関係一、2021.10.08-10.</p>	<p>★先史と文明を仲介する前方後円墳の儀礼文化、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、Vol.6/No.18 2021.08.02. ★信濃・上野古代朝鮮文化の関川水系遡上という可能性、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、Vol.6/No.20 2021.09.01. ★越後・久比岐を経由する古代文化交流誌、NPO 法人頸城野郷土資料室、2021.09.01.</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>	<p>★コロナ感染にみる呪術的闇と科学的闇—フレイザー『金枝篇』を読む⑤—、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第 21 期第 5 講、2021.01.09 ★御嶽神社オオカミ狛犬調査、大田区御嶽神社、2021.11.09</p>	<p>★キリスト教神話のドラマトゥルギー—グノーシスの解釈とフェティシズム的解釈、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、Vol.6/No.02 2021.02.14. ★母系制と姫彦制の関係—高群逸枝『母系制の研究』に鑑みて—、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、Vol.6/No.04 2021.03.03. ★歴史知のオントロジー 文明を支える原初性、社会評論社、2021</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤 太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>・頸城野地域を含む「裏日本」文化に関する研究</p>	<p>・本年度は、秋田県内のフィールドワークを中心に行った。</p> <p>1) 2021 年 6 月 5 日寒風山風穴（秋田県男鹿市）</p> <p>2) 2021 年 6 月 26 日ネコバリ岩（秋田県五城目町）</p> <p>3) 2021 年 7 月 18 日鶴ノ崎海岸（秋田県男鹿市）</p>	
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>・南方熊楠が粘菌研究から構想した生命論の探求</p>	<p>1) 南方熊楠の粘菌に対する言及の調査。</p> <p>2) 野生種の粘菌の採集・観察。</p> <p>1)及び2)をつなぎ合わせ、さらにハイデガーや華嚴思想における存在論を援用し、21 世紀に提唱すべき新たな生命論の模索を行った。他に、粘菌とアートを接続させる試みとして、美術家の間瀬拓人とコラボレーションし作品を発表した。また、秋田公立美術大学粘菌研究クラブをプラットフォームとし、粘菌の動態に生命の息吹を見出す活動を行い、その成果を展覧会やシンポジウムで発表した。</p>	<p>（論文）</p> <p>❶「南方熊楠によるナギランの発見」（『「エコ・フィロソフィ」研究』vol.15、東洋大学、pp.69-89、2021 年 3 月）</p> <p>❷「粘菌検鏡—南方熊楠による「世界一般」への潜入—」（『環世界の人文学—生と創造の探究—』、石井美保・岩城卓二・田中祐理子・藤原辰史編、人文書院、pp.285-304、2021 年 3 月）</p> <p>❸「粘菌哲学序説—「十玄縁起」を援用しながら—」（『たぐい』 vol.4、亜紀書房、pp.104-124、2021 年 9 月）</p>

		<p>(講演・口頭発表)</p> <p>①「粘菌研究クラブについて」(秋田公立美術大学複合芸術会議 2021vol.2「粘菌の視座」、発表&ディスカッション [×齋藤帆奈・三原聡一郎]、秋田公立美術大学大学院、2021年3月)</p> <p>②「籠るとひらく一知の巨人・南方熊楠と現代アーティスト」(紀南ケミストリーセッション vol.2、発表&対談 [×前田耕平]、紀南アートウィーク 2021、2021年5月)</p> <p>③「南方熊楠像を今どう語るのか—幽霊とニニフニー」(2021年度南方熊楠研究会夏期例会、コメンテーター、南方熊楠顕彰会、2021年7月)</p> <p>④「南方熊楠 夢に導かれたその人生—森・粘菌・やりあて—」(朝日カルチャーセンター特別企画「南方熊楠の夢と現 没後80年」、発表&鼎談 [×鏡リュウジ・小田龍哉]、朝日カルチャーセンター、2021年8月)</p> <p>⑤「粘菌生命論」(第55回マルチスピーシーズ人類学研究会「参与と生命 II 個/体を超える、その手前とかなた」、発表&ディスカッション [×甲田烈・天海ヒロ・Tim Mclean・高岡よし子]、マルチスピーシーズ人類学研究会・大衆思想の系譜研究会、2021年9月)</p> <p>⑥「南方熊楠の見た大宇宙—粘菌の視座から—」(明治大学大学院教養デザイン研究科「映像資料</p>
--	--	---

		<p>活用による学際的アプローチの醸成プログラム」、明治大学大学院教養デザイン研究、2021年10月)</p> <p>⑦「熊楠が見た夢—高山寺とアートを巡る—」(紀南アートウィーク企画、対談 [×前田耕平]、紀南アートウィーク 2021、2021年11月)</p> <p>(エッセイ)</p> <p>①「こもり即ひらけ—ミクロの世界に「大宇宙」を見る熊楠—」(紀南アートウィーク 2021 ウェブサイト、2021年5月)</p> <p>②「鎮守の森にみる「相依相待」「縁」というもの」(『日本人の忘れもの—知恵会議—』、京都新聞編、pp.286-287、2021年7月)</p> <p>(書評)</p> <p>①「様々な人物の関係性を読み解きながら、生命と霊性という根源に向かう書—熊楠によるエコロジー思想が浮き彫りにされる—」(『熊楠：生命と霊性』、安藤礼二著、河出書房新社、2021年)(『図書新聞』No. 3501、図書新聞、2021年6月)</p> <p>(インタビュー記事)</p> <p>①「外臓と共異体の人類学」(石倉敏明へのインタビュー)(『モア・ザン・ヒューマン：マルチスピーシーズ人類学と環境人文学』、奥野克巳・</p>
--	--	--

		<p>近藤祉秋・Natasha Fijn 編、pp.209-238、2021年9月)</p> <p>(企画監修)</p> <p>① 記録冊子『Cosmographia』(秋田公立美術大学粘菌研究クラブ 2020 活動記録、全 30 頁、2021年3月)</p> <p>② 展覧会「めぐり方のレシピ」&シンポジウム「粘菌の視座」連動企画〈派生する悦び〉(秋田公立美術大学粘菌研究クラブ、2021年3月)</p> <p>③ 令和3年度あきたサイエンスクラブ(美大コース)「未知の生物(粘菌)の生態を知ろう！」(秋田公立美術大学、2021年8月)</p> <p>(展覧会)</p> <p>① 「○窓 - 借景プロジェクト “RESONANCE“」(間瀬拓人 collaboration with 唐澤太輔、空間演出: 西陣変築企画室 feat. Hiroka Saga、2021年3月~4月、京都妙顕寺)</p> <p>② 「秋田公立美術大学粘菌研究クラブ展示ブース」(〈rooms 43 クリエイティブの祭典〉、秋田公立美術大学粘菌研究クラブ、新宿住友ビル三角広場、2021年10月)</p>
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木 朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク	・シンポジウム発表:「ダンテとボードレールは比較可能なのか? — 19世紀フランスの廢墟のアレゴリーに向けて」 10月10日『世界文学会 ダンテ・シンポジウム「ダンテと世界文学」』於 東海大学

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関係する研究】</p> <p>くびきの文化関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直江津プロジェクト関係 <p>・「道・旅・文化交流」関係</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年第 1 回会合（8 月 23 日：zoom）－前年度の活動報告と新年度の活動方針の打ち合わせ。 <p>2) くびき野カレッジ（資料調査等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料収集（4 月 3 日）：頸城郡絵図関連調査＝新潟市、新潟県立図書館 ・資料収集（11 月 20 日）：北九州市、ゼンリンミュージアム（地図の博物館） 	<p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 2 講「直江津往還補説 13－頸城野内往来：在の道 3、国絵図と道 1－」（5 月 8 日：zoom）</p> <p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 2 講「直江津往還補説 14－頸城野内往来：在の道 4、天保図関連－」（10 月 9 日）</p> <p>[報告] 道・旅・文化交流－第 2 回会合「国絵図と在の道」</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>歴史学関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近現代史関係 <p>・ロシア、ソ連史関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本西洋史学会参加（zoom） ・近現代史研究会開催（zoom） ・ロシア史研究会大会参加（zoom） 	

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野 俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 プロジェクト [21 世紀の上越スタイル]	・左記プロジェクトを発足させ、趣意書の作成、説明会の開催等の準備作業を進めた。	・趣意書および情報カード記入案内の作成（他の発起人 2 名との共同執筆） ・「プロジェクト [21 世紀の上越スタイル] の意味と意義」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』フォーラム 79 2021 年 11 月 30 日
【くびき文化に関係しない研究】 四国遍路習俗の総合的性格に関する検討	四国 4 県によって設置される、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加した。	以下の日程で会議実施 ・2021 年 3 月 12 日（オンライン開催） ・2019 年 10 月 22 日（オンライン参加）

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 『直江津往還』の全国展開の試み</p>	<p>1) 「直江津プロジェクト」 首都圏に在住の「直江津プロジェクト」メンバーとの懇親を、今年度は Zoom を通して図りながら、研究情報の交換を行った。</p> <p>2) 「西川吉之助の直江津時代」 上記のテーマについて、『直江津往還』の読者（教育聴能学の研究者）から問い合わせがあり、調査を行った。 西川は、大正から昭和初期にかけて聾学校・聾教育に口話教育の普及を推進した教育者であるが、元々は近江八幡出身の商人で、北海道でエドウィン・ダンと知り合い、ダンに招かれて直江津の石油会社にも勤めた人物である。この調査で、直江津時代のダン、西川、伊藤一隆の関係を見いだすことができた。</p> <p>3) 「ダンかるた」 札幌の「エドウィン・ダン記念館」の園家廣子氏より、エドウィン・ダンの会が作成した「ダンかるた」をいただき、ダンに関連する最近の情報交換を行った。</p>	

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>1) ジョン・ロックにおける蓋然性論の研究</p> <p>2) 哲学教育のあり方に関わる研究</p>		<p>【学术论文（单著）】</p> <p>「ロックの『人間知性論』における伝承の不合理な諸要因—パスカルの「想像力」と比較して—」、『総合社会科学研究』（総合社会科学会編）（通巻33号）、1-14頁、2021年3月。</p> <p>【シンポジウム】</p> <p>「コロナ禍で再検討される大学教育のあり方」、担当報告（単独発表）：講義科目（哲学講義）を例に 総合社会科学会・第23回研究大会、於日本大学商学部（Zoom会議）、2021年6月27日。</p>
---	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 ・太宰治の佐渡	・本年より〈道・旅・文化交流〉企画が石塚正英理事長のかけ声のもとではじまった。コロナ禍における閉塞の乗り越えを旨とする。本研究では、中期太宰の短編「佐渡」を取り上げる。昭和 15 年 11 月 16 日、太宰は旧制新潟高校に招かれ講演を行い、17 日、佐渡へと渡った。旅嫌いだっただけの太宰はなぜ、佐渡に渡ろうと思ったのか。のちの傑作『津軽』のような大きな企画ではない。佐渡に渡ったのは個人的関心からである。また講演では学生に何を語ったのだろうか。「閉塞」へのヒントになる言葉たちがあるはずだ。本研究では、このような問題関心から、その周辺の文献学的研究を通じてもうひとつの太宰像を提示したい。	
【くびき文化に関係しない研究】 ・ベネターの反出生主義と現代にみる「宿命」論	・グローバル化の進展は、社会の流動性を生み出すとともにその帰結として圧倒的な固定化(=「宿命」)を招いた。再埋め込みと新しい中世。努力によって動かせる人生の幅は限りなく少ないというリアルと時代が要請する生産性。そうした中、ベネターの反出生主義が注目されている。本研究では、ベネターの〈奪われる〉ことへのセンシビリティに光をあて、構成的〈外部〉としての〈はじまり〉に担保された生き生きとした〈内部〉の立ち上がりの可能性を模索せんとするものである。	「奪ってはいけない——ディヴィッド・ベネターの反出生主義と向き合う」関東医学哲学・倫理学会(9月例会)(於)オンライン 2021年9月11日

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木 謙之介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	近代天皇（制）と地域社会について時代と地域をまたいで展開するあり様を分析中である。研究成果発表は順調に進捗している。	・論文 茂木謙之介・大道晴香「〈怪異〉からみる二・二六事件——北一輝と対馬勝雄におけるオカルト的想像力」（大道晴香と共著）（茂木謙之介ほか編著『〈怪異〉とナショナリズム』青弓社、2021年11月）
【くびき文化に関係しない研究】	天皇・怪異を中心に、近現代日本に関連する表象研究を遂行し。研究成果発表は順調に進捗している。	・論文 茂木謙之介「須永朝彦と雑誌『幻想文学』（『ユリイカ』2021年10月臨時増刊号、2021年9月） 茂木謙之介「第13章 “オカルト天皇（制）” 論序説——一九八〇年代雑誌「ムー」の分析から」（茂木謙之介ほか編著『〈怪異〉とナショナリズム』青弓社、2021年11月） ・書籍 小泉勇人，茂木謙之介，大鳴えり子編著『オンライン授業の地平 —2020年度の実践報告—』（雷音学術出版、2021年4月）

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 柏崎市内北条地域の歴史・民俗</p>	<p>菅原神社（上越市）の祭神を勧請して創建された刈羽神社（柏崎市南条）で、かつて神楽奉納があったとの話を耳にし、『柏崎市史』を参考に探訪を行なった。 御島石部神社（柏崎市北条）もまた、刈羽神社の歴史を紐解くうえで切り離すことのできない対象である。 JR 北条駅の観光地図には、道祖神の配置の詳細が描かれている。 なお、同地域は中世において越後毛利氏の拠点であった。</p>	<p>現在のところ、発表なし。 今後、さらに探訪・見学を実現していきたい。</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 家族と法</p>	<p>家族とは、財産の共有・相続を行なう人間関係という側面を強く持つ集団である。 多様性社会の構築が求められる現代において、家族の在り方も変化を起こさざるをえないだろう。 家族にまつわる法（主に民法）に触れることで、現代に至るまでの日本における家族のかたちをまずは把握したい。</p>	<p>現在のところ、発表なし。 今後、民法を学ぶ必要のある国家資格・民間資格について取得を試みたい。</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
2021 年度学術研究概要報告

研究者氏名 湯本 泰隆

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 特になし	2022 年は石造物関係で何かやりたい。	YouTube 上で発表したい
【くびき文化に関係しない研究】 三島億二郎に関する調査	三島億二郎に関する 1 次史料所在調査 1892 年以降 2020 年までの三島億二郎に関する文献調査 三島億二郎年表まとめ	2022 年成果の一部が刊行予定